



月報

岡崎の教育

10月号

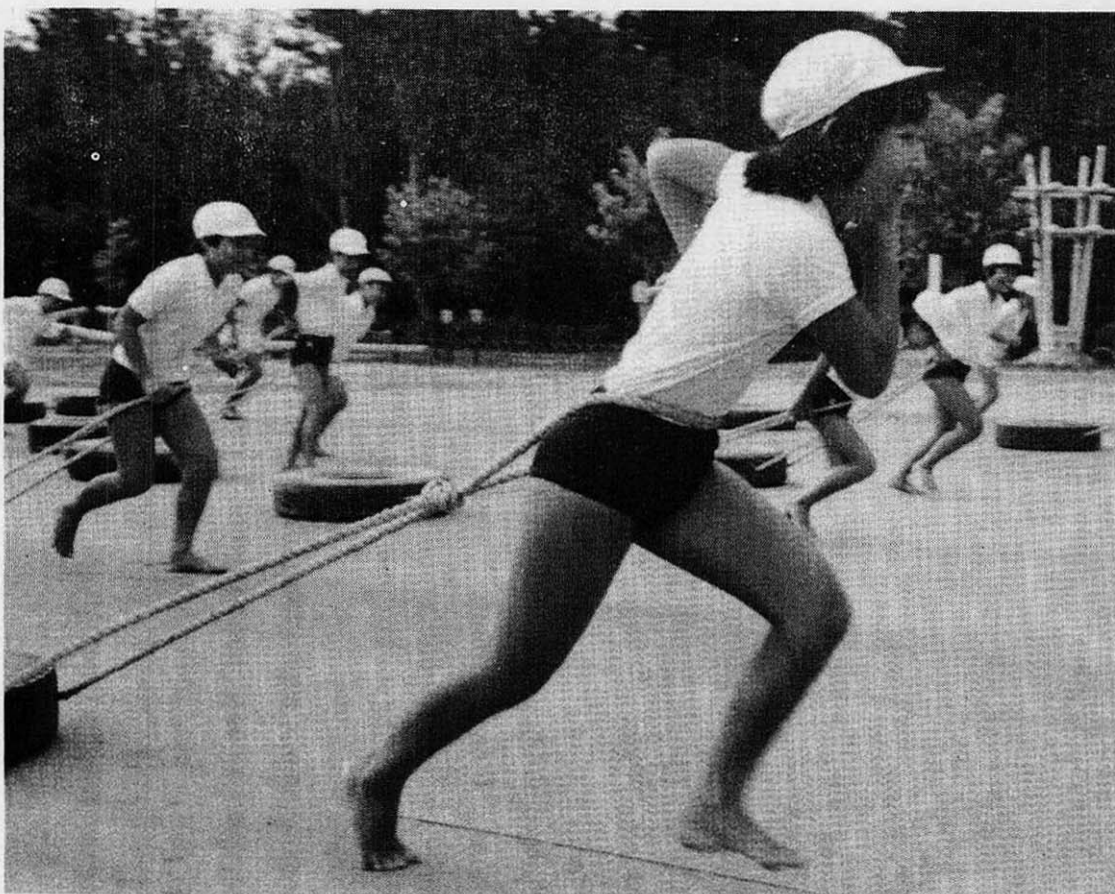
昭和57年10月1日
 編集/発行
 岡崎市教育委員会

はだして大地を踏み
 全身に太陽を浴び
 自然とひとつになって
 走りまわり 駆け回り
 汗びっしょりになる
 そんな子に育ってほしい

からだを動かすことが好きで
 笑うべきときには笑い
 汗を流すときには流し
 耐えるべきときには耐える
 そんな子に育てたい

いつでも瞳を輝かし
 顔を上げてものを見つめ
 全身でぶつかって
 最後までやりとげる
 そして思いやりのある
 そんな子に育ってほしい

二発とは
 力をこめて話し
 努めて大声を出すこと
 三快とは
 快食・快眠・快便のこと



(10分間運動 - 井田小)

先日、私は、幼稚園を長く経営し、自ら園長として幼児教育に三十年間活躍している人に、親しく懇談する機会を得た。話が雑談に移り、「ところで、鈴木さん近ごろの母親はどういう教育を受けたのでしょうか、主張だけで妥協がない」と嘆く。

幼児教育で最も大切なのは、同じ年ごろの子が「遊び」をとおして休から覚え、自然に学んでいくものを尊重すること

豊かな創造性と生涯教育のすすめ

鈴木正雄



ある。無理に上から押しつけるものではない。

幼児は「遊び」のなかで自分達の世界を造り、そのなかで各人の能力を認め合っ

幼稚園を小学校の予備校と考えている母親もいる。さらに、それに迎合した英才教育と称する幼稚園もある由、幼児の創造性を阻む「遊び」を無視した教育には末恐ろしいものを感じると言っていた。

ところで、企業においても成長する会社は、上から下までの全ての人が創造性と協調性を発揮している企業である。トップマネジメントの創造性は、戦略的意思決定に発揮され、中間管理者の創造

で、特に人材産業と言われるほど人の活用が重要である。

松坂屋では、全国各地において、開店前に売場で朝礼が一齐に行われ、その日の仕事上の指示・スケジュールなど基本的な販売動向を確認し合いながら、売場員相互のコミュニケーションが図られている。戦後一貫して社内教育の立場からOJT(オンザジョブ・トレーニング)を採用しているが、これはその一端であり、日常の仕事の中で知識を習得させるものである。同時に、この朝礼では「人の和」と「工夫」が自発的に生まれる。社内での教育訓練はこの他、社員の年齢・性別・能力などに合わせて各種多様な教育が実施され、社員自身の旺盛な自己啓発意欲を促している。

私は教育には、自らの環境のなかで絶えず最善のものを学びとる姿勢と同時に、それに呼応する体制を整備することが不可欠であると考えている。人間は成長するにつれて環境も変わる。教育は、この変化した環境に見合ったもので、日常生活のなかで存在しなくてはならない。その意味から言っても、学校を卒業してから各人が職場をとおして習得する教育は、その人の人生において大きな意味を持つものと言わざるを得ない。

企業と社員が一体となって作りだす生涯教育のプログラムは、創造性豊かな協調性のある企業風土のなかで育てられなければならない所以である。

(松坂屋副社長)

夢のハワイ？

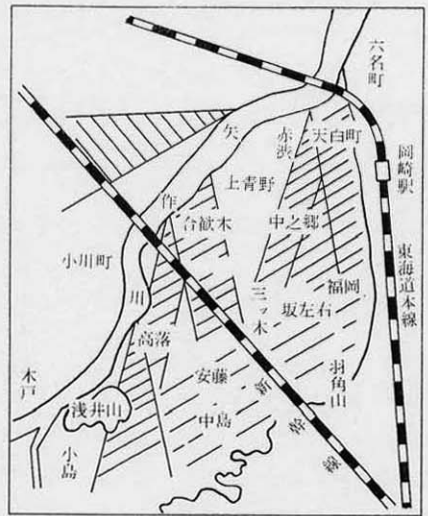
竹内順子



夢のハワイに着いてみれば、灰色の空に冷たい風。がたがた震えてバスに乗れば、日本語ペラペラガイドさん。かの有名なダイヤモンドヘッドも名前負け。ワイキキビーチも、せっせと砂を運んで作った人工海岸と聞けば、夢のハワイもどこへやら。ホテルに着いてテレビをひねれば、なんと、「水戸黄門」をやっている。「この印籠が見えないのか」と、言っている。

待望の食事は食べ放題のバイキング。油べったり肉料理。朝・昼・晩と同じとては、胃薬片手にかんげれど、三日ともたず、ついにハワイで「さしみ」を食べる。買ったばかりのムームーで、メイン通りを歩いてみても、日本人の小さな体に不釣り合い。裾を引きずり威張ってみても所詮外人に勝ち目なし。

どこへ行っても日本人。土産を買うのも日本人。トイレにはいれば日本人。あまりの多さにいささか幻滅。大金つぎ込み外国で、「いらっしやいませ」の挨拶



—ふるさとの山河—

矢作川 (7)

災 害

今年の八月、台風十号により、三河地方は集中豪雨に見舞われた。岡崎近辺でも、矢作川支流の広田川等が増水し、幸田町菱池江尻一帯に浸水した。この地区実は、乱流時代、矢作川の一つの入り江であったと考えられている。

一三九九年(応永六)の「六ッ名堤」の築堤、一四五五年(康正元)の西郷頼頼による岡崎城築堤の際の築堤により、矢作川の流れば、徐々に安定してきた。平野地帯の農業を潤すためにも、物資の輸送路を確保するためにも、流路を安定させることが為政者の願いであったに違いない。

ところが、皮肉にも、築堤によって別の問題が生じてしまった。築城に伴う築堤の結果、水路が安定したことにより、上流から運ばれてくる土砂が逃げ場を失い、次々と堆積してしまうのである。もちろん、当時の技術と経済力が弱く、

小さな堤防しか作れなかったことも原因の一つであろう。矢作川が天井川化の度合いを強めていった結果、築堤後の百五十年間における大規模な水害は、二十四件と、以前の百五十年間の件数の四倍にものぼったのである。

この傾向は、一七二七(享和)ごろから顕著になり、一七五七(宝暦七)には、「一河床が一・二メートル一・五メートルも高くなった」とも記録されている。天井川化が進むと同時に、災害の頻度は増していった。

一七七九年(安永八)八月二十五日、おりからの大雨で、矢作堤、三島堤を初め、所々で決壊があった。日名・青木・川端・伊賀・渡・久後崎等に浸水し、水深は六メートルにも及んだ。橋、家屋等が流失、水死者も多くを数え、岡崎城の惣門石垣が流れ崩れたほどであった。この水害を機に、流域に住む百姓から

幕府に対して「川ざらえ」の嘆願が数回出されている。しかし、河口の「瀬堀り(部分的床上げ)」だけにとどまり、抜本的な対策は回避されてしまっていた。

一八八二年(明治十五)の三島切れを契機として、抜本的な治水工事の必要性が叫ばれたが、実施は遠く昭和七年七月の巴川流域の下山村、額田郡の大雨洪水による大災害により、矢作川流域は、昭和八年以降国の直轄河川に指定された。その間、明治用水頭首工(明治四十二)、越戸ダム(昭和四)、矢作ダム(昭和四十六)の完成、伊勢湾台風以後の砂利採取により、本流の洪水による被害は減少した。水害の形態も矢作川本流の破堤や支流の破堤から溢れ水によるものへと変化してきている。菱池一帯の災害もその一例であろう。

(矢北中 石井 洋)



広田川のはんらん (中日新聞社提供)

だ。英語と言えば、「イエスとサンキュー」のみで事足りて、まったく夢のハワイはどこへやら。(細川小)

二大ピラミッド

藤井孝弘

午前九時、マイクロバスでギザへ向かう。気温四十度。ナイル河から引いた幅三十センチほどの農業用水の濁った水で、食器や物を洗っている少女。黒くて長いエジプトドレスを着て頭上に荷物や瓶をのせて歩く女性。ロバの上の老人。十時、目的のギザに着く。右からクフ王の建てたという高さ百四十七メートルの大ピラミッド。左に、カフラー王の手による第二ピラミッドがスフィンクスを連れ、さらに、メンカウラー王の第三ピラミッドが並んでいる。一個平均二・五トンの石材二百三十万個(第一ピラミッド)、常時十万人という人が、延べ二十年間も働き続けたという。一体どうやって運び、どのようにして積み上げたのか、世界の七不思議の一つだ。余りにも偉大すぎ、全容が眼の中に納まらない石の塊を見上げて、「すごい」と驚くばかりだ。私たちは第一ピラミッドの中へ入る。三十メートルほど進むと、背を丸めて通る狭い上昇通路がある。次に大回廊がある。それを登りきると王の玄室があり、花崗岩製の石棺一つが置かれている。外へ出てラクダに乗り、記念撮影。一ドル払う。(城北中)

給食センターを

訪ねて



毎日世話になっている南部給食センターを訪ねた。六ツ美南部小学校区に広い敷地をもつスマートな建物である。一万食は可能な施設である。

入口で、まっ白な作業着と白い長靴に変え、手を消毒する。「絶対器物にさわらないように」と注意を受けて調理室に入る。ビカヒカに磨きあげられた釜や器具が目に入る。すべてステンレス製であるという。

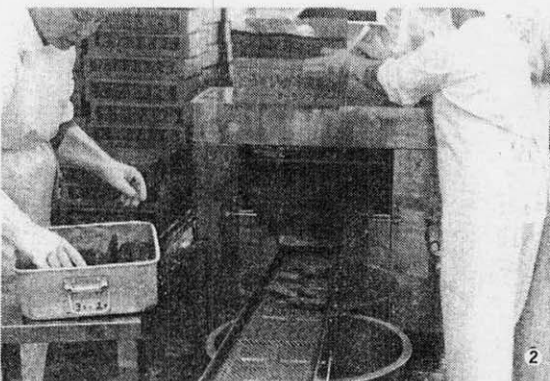
まず新しい厨房器具を紹介すると、連続リング切機、サイノメ切機、カッターミキサー。サラダや和え物の野菜の脱水機。上下の天火で焼く自動魚焼機。最新鋭はたまごを洗って、たまごとじや親子煮に使えるように攪拌までの作業をするたまごわり機である。

調理は蒸気で行う。ボイラー室では五気圧、それを二気圧に調整して使用する。火傷に留意して、夏でも調理員は長袖を着用している。受水槽には一日分が貯水され、断水の場合はそれが消毒・配水される。

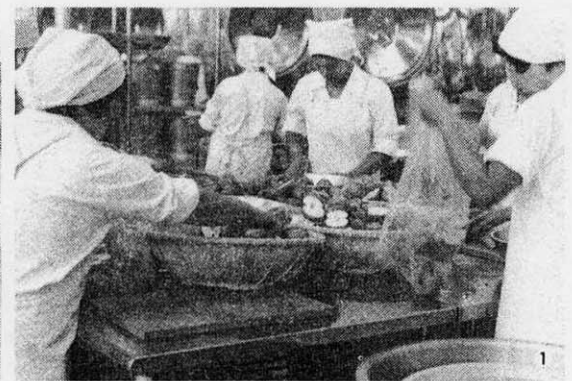
コンテナを配送車に積みこむ出入口は、ゴミや虫類を防ぐためにエアカーテンが設備されている。揚物機も、たまごわり機も、ホリ製のざる、籠類も調理がすむとすぐにタワシで磨かれる。作業衣は毎日洗濯され、清潔第一の心遣いが至る所にみられる。

作業はまず会議室で献立調理方法、分担等の話し合いから始まる。調理、配分がすむと、器具を洗うことや翌日の下準備もされる。野菜類を洗い、皮をむいて、四百平方メートルくらいの冷蔵庫に保管する。訪問した時は、ジャガイモの芽取りがいていねいに行われていた。翌日はその切断から作業が始まる。献立は二か月前にたてられ、一か月前には物資の運定、発注がすむ。竹輪等練り物は塩分の少な目の物が特注され、塩分の少ない食生活を習慣化するように考えられている。

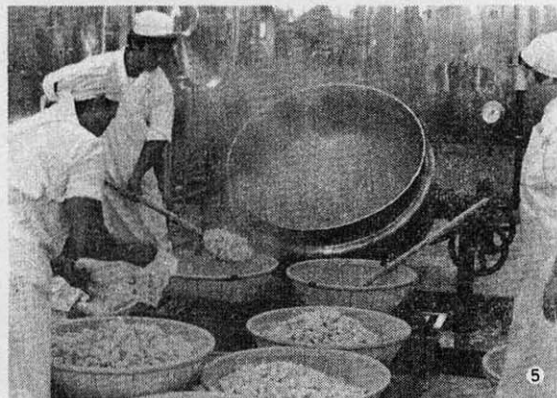
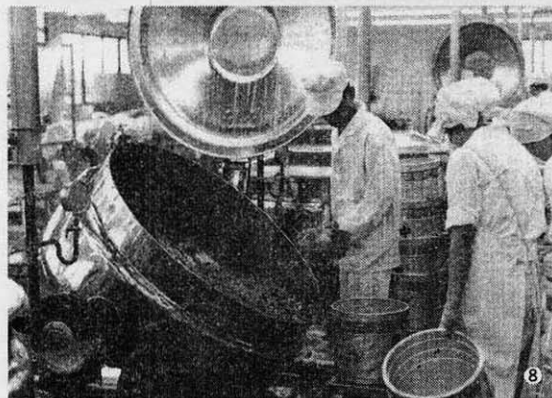
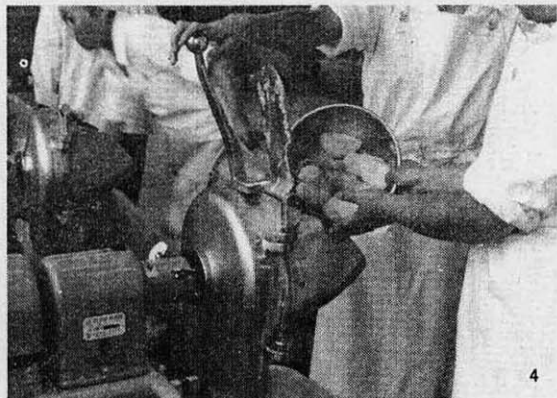
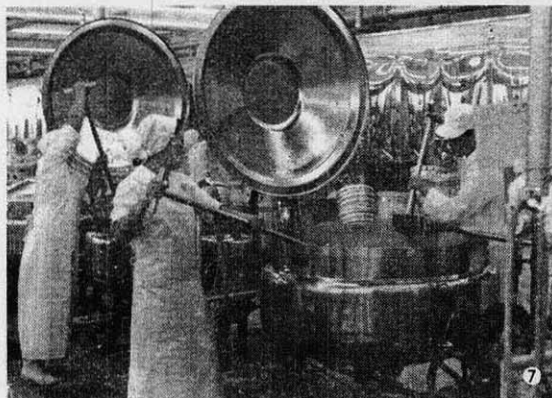
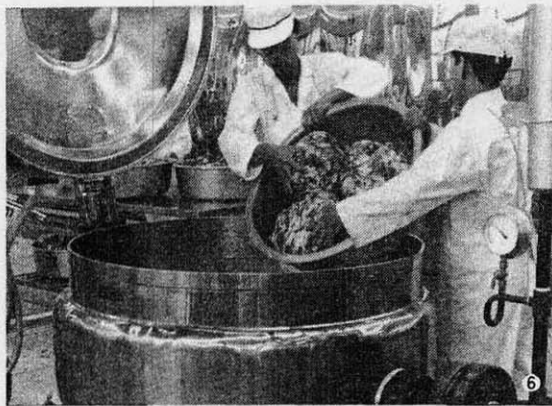
以上、いろいろな配慮の下に運営されていることを知った。また、僅かな冷房（扇風機は回っていたが）むっとする熱気の中の作業、感謝しながらお暇した。



2



1



- ① 包丁で切り、手作業で袋詰め。
- ② 冷凍食品、サーモンフライは自動揚物機の一回転ででき上がり。
- ③ キャベツはフードカッターで。
- ④ タマネギは合成調理機で。
- ⑤ むぎエビは、大きな蒸気釜でまとめてゆでて、それから各釜へ。
- ⑥ 油、肉、ニンジン、なると巻きなどを順に釜に入れる。
- ⑦ 大きな「しゃもじ」で攪拌。
- ⑧ 大きな「ひしゃく」ですくい、食缶に入れる。
- ⑨ コンベアで送られ、学校別のコンテナへ収納。学校へ出発。

水泳部の顧問をして

矢南小 榊原ひとみ

「お願いします。」

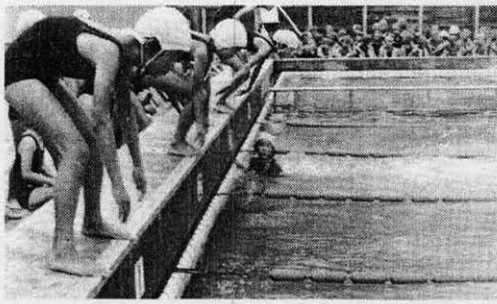
「元氣一杯のあいさつが校庭に響き渡り、水泳部の練習は始まる。子供たちは、自分の目標に向かってプールへ入る。」

「きもちいい。」

と得意の平泳ぎで泳ぐ男子。

「つめたい。」

と体をひきしめ泳ぐ女子。水の中での体の躍動。私は、これを見て、体も心も感動する。



さつと男女がコースの両側に分かれ、能率的に活動する。指示をよく聞き、一生懸命練習するのは、S先生と子供たちとの人間関係が部活動だけでなく、他の所でも深まりがあるためである。新米の私は、S先生の指導に感激すると共に、学ぶことが多い。多人数の指導は、安全面に心を配ったり、集団と個人の間関係をきめ細かくすることも必要がある。

体の小さいY子は、私が三年の担任の時、隣のクラスだったので、良く遊んだり、話す機会もあった。四年生になったら、姉のいるソフト部に入ると言っていたが水泳部に入部してきた。



もう一つの教材研究

矢西小 山田 一夫

「榊原先生がいるもの。」と、言っ私を慕ってくれたので、うれしかった。初めのころ、十メートル前後しか泳げなかった。段階的な指導により、五十メートル、百メートルと泳げるようになった。Y子は選手に選ばれた時、飛び上がって喜んだ。

このことは、先生方や保護者のみなさんの温かい協力があったからである。特に、私は、S先生の指導の厳しさと思いやりのある、子供たちとのふれあひについて、いろいろ教えられた。

夏休みの初めに、S先生が、

一週間ほど研修に行かれた。子供たちは、

「いつ帰ってくるの。」

と、寂しそうであった。私もS

先生のように待ってもらえるよう、情熱を燃やして子供たちに接していききたい。S先生が研修

のため留守であったが、矢作地区大会は優勝することができた。子供たちの満足げな顔を見ると、微力ながらも水泳の顧問をしてよかったと思う。

教育日々

「給食センターで働く人々」という單元を構成し、実践している時のことである。

私がかどもたちに、大きなし

やもじを提示すると、「それはスコップだろう。工事のおじさんが使うものだ」と言い張った。

「給食センターから借りてきた。給食を作る時に使うのだ」と言っても、子どもたちは納得しな

い。そして、「岡田君の背より大きなしやもじが、あるわけはない。」「そんな大きなものでまぜたら、おかずが、めちゃくちゃになる」と言い張った。私は

子どもたちの腰の強さに驚いた。こうして、子どもたちの中から、給食センター見学の必然性が出てきた。

このおぼけしやもじ（子どもたちは、そう呼んだ）が、追究の引き金となり、子どもたちの心に火をつけた。

山口は、センター見学までの時間が待ちきれず、帰宅途中にセンターに忍び込み、働く人たちの様子を探ってきた。また、井上は、自分の近所で、センターに勤めている人たちの家々を訪ね歩き、自分の疑問をぶつけてきた。

子どもたちは、体ごと課題にぶつかっていく中で

○ なぜこんなに大きなおぼけしやもじを使わなくてはならないのか。

○ おかまの中には何人分の給食がかくされているのか。

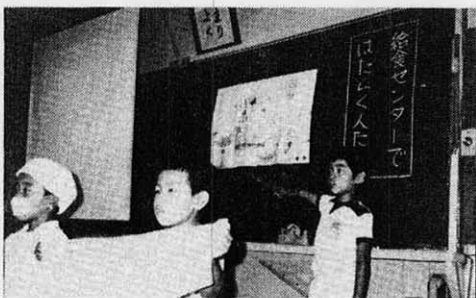
○ どうしてセンターで働いている人たちは、汗をたくさんかいているのか。

などを問題にし出し、普段何気なく食べている給食は、非常に

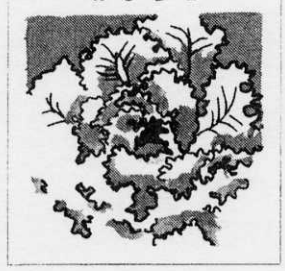
たくさんの人たちの苦勞の積み重ねによって作られているんだということに気づいていったのである。

この実践を通して、私は、子どもが本気になって追究し出した時、追究方法に、それぞれの子どものおぼけや特徴が表れることに気がついた。そのおぼけや特徴は、発言や記録、行動となって表れる。

私は、一人ひとりの子どものくせをつかむことも、重要な教材研究の一つではないかと思うのである。このくせを、より細かくつかむことによって、適切な指導助言ができるよう、努力していきたいと思う。



おしらせ



四名の中学生がアメリカへ

第三回岡崎市中学生海外都市親善使節団として

国際化時代を迎え、未来の岡崎を背負う生徒に夢と希望をもたせようと、一昨年からは岡崎市が実施している中学生の海外使節団は、今年もアメリカ西海岸を訪問する。

今年のメンバーは、大西雅也君(童海中)中根正雄君(矢作北中)長坂美佐枝さん(岩津中)太田葉子さん(六ッ美中)で、付き添いとして杉本佳子教諭(東海中)が同行する。

主な日程は次の通り。
十月十三日(水) 東京発
十月十四日(木) サンフランシスコ
十月十五日(金) スコ
十月十六日(土) ロサンゼルス
十月十七日(日) ロサンゼルス
十月十八日(月) ロサンゼルス

【寄贈刊行物・資料等】

◆額田郡河合村誌(復刻版) 生平小学校

B6判 六四頁

◆やまなかのむかしばなし 山中小学校

A5判 一四二頁

◆わかりやすい書写指導

松崎 稔・中尾 劍一

B6判 二二二頁

◆岡崎市の鳥 ハクセキレイ 明保俊通

A5判 上製本 八〇頁

◆昭和57年度 研究発表会記録 甲山中学校

B5判

賞を受賞した。

■竜美丘小に金賞

県吹奏楽コンクールで竜美丘小は小学校の部で金賞となり、来る十一月七日、東京で開かれる第一回小学校バンドフェスティバルに出場する。

■十月の研究発表表

美合小学校 十月八日(金) 「やり・わかり・できる子の育成」――作文・道徳・体験学習を通して――

・羽根小学校 十月十九日(火) 「楽しい学校給食をめざして」――素直に感謝できる子ども、温かい心の通う集団へ――

本宿小学校 十月二十九日(金) 「ともに励まし合って伸びる子どもの育成」――心のふれあいを求めて――(文部省指定)

■十月の主な行事

％(田) 彫(用)技術・家庭科作品展、理科作品展

％(田) 中学校新人体育大会

％(田) 小学校陸上競技大会

％(大) 英語スピーチ・フェスティバル

％(土) 教育文化賞授賞式

■健康優良児童・生徒

九月九日、実地審査の結果、次の者が選ばれた。

○小学校の部

岡崎一 羽根 杉田 洋之

連尺 大美 幸江

準岡崎一 六名 乗松 克也

連尺 竹川 伸吾

大樹等 関 小百合

矢西 牧野 公美

○中学校の部

岡崎一 矢作 越智 敬三

東海 植松 園

準岡崎一 甲山 黒柳 武司

常磐 坂崎 茂一

城北 磯谷 明子

矢北 望月 聖子

■後期教育実習

十月四日から後期教育実習が始まる。受け入れ校及び実習生名

世界子ども美術博物館

外国の伝統的玩具収集にご協力を

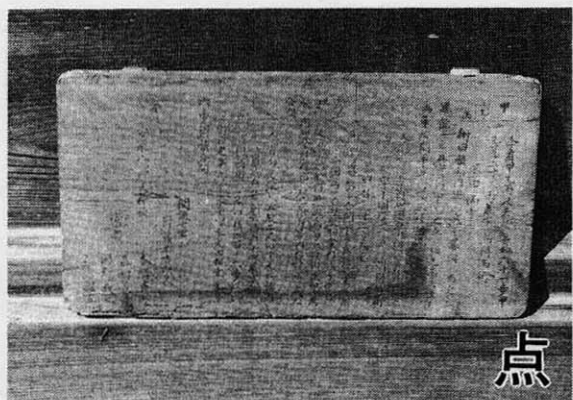
世界子ども美術博物館準備委員会では、昭和五十九年のオーブンを目ざし、作品や資料を集めています。お手もとに外国の伝統的な玩具、民芸品がありましたら、ご提供ください。詳細は次へ。

連絡先・岡崎市教育委員会学校教育課(23-6441)

の数は次の通り。

▽岡崎小||愛教大五名、名女大一名▽六名小||愛教大六名▽三島小||愛教大六名、名女大一名▽竜美丘小||愛教大八名▽井田小||愛教大五名、名女大一名▽大樹寺小||江南女短大二名、岡女短大四名▽大門小||江南女短大二名、岡女短大二名▽細川小||岡女短大四名、名自短大一名▽山中小||岡女短大三名▽矢東小||岡女短大五名▽六中小||岡女短大二名▽甲山中||名市女短大二名、淑徳短大一名、日本福祉大一名、愛大一名、名女大一名▽茨中||名女大二名、愛大一名、名自短大一名、日本福祉大一名、中京女大一名▽福岡中||日本福祉大一名、名女大一名▽河合中||愛知学泉大一名▽梅園幼||名短大五名▽広幡幼||愛教大三名、名自短大一名▽矢作幼||一宮女短大二名、中京女大一名

六所神社の算額



所在地一岡崎市明大寺町

「今、正方形甲乙丙があり面積の和が六十一歩。甲乙の一边の差は二寸、乙丙の差は一寸。丙の一边を求め術を問う」この計算を代数を使わずに解けといわれたらなかなか難題だ。安永八年（一七七九）六所神社に奉納された算額に記された三問の和算の内の一問である。

そもそも算額は絵馬に算術の問題を記し、自己の得た難問の解法を神仏に捧げて感謝の意を表すとともに参詣者に我が術を問うたものだといわれ、十七世

紀にはすでにあったという。全国におよそ四百面、愛知県は多い方だそうである。

この算額は六所神社の桜門の中に多くの絵馬とともに保管されてあった由。たて二十五センチ、横五十センチの長方形、厚さ一センチの杉板に、安永八年天仲秋、関流齋藤土吉門人、当国本間資忠以下三人の名が連記してある。和算は和歌俳諧などのように当時の文化人の間で流行したものと聞き、祖先の教養の高さにあらためて敬服した。

●カ
ツ
ト
男川小山
口
泰
代

この本を

- 文章の書き方 尾川正二 講談社 420円
- 東海のことは地図 竹内俊男 六法出版 1,500円
- 生体解剖 上坂冬子 中公文庫 340円
- 生徒の健全育成をめぐる諸問題 一校内暴力問題を中心に— 文部省 大蔵省印刷局 260円
- 愛子いとしゃ 川口松太郎 講談社 1,100円
- ええじゃないか 水谷盛光 中日新聞社 1,200円
- こけたら立ちなはれ 後藤清一 P H P 研究所 680円
- 水の歌 山田もと 小峰書店 1,100円
- 笑いのタネ本 宇野信夫 平凡社 1,200円
- 夕暮れに菫を植えて 足立巻一 新潮社 1,000円

「落とすな、がんばれ」

と、大きな声。あわてて補助に走る。

「上台がしっかりしなければ、だめだ。歯を食いしばってがんばれ」

今度は、やっとなってきた。うれしそうな顔。思わずにこり。

運動会、組み立て体操の練習。小学生の時、こんなに力がなかったかなあ。

飼育当番の児童は休日も学校へ来て、鶏・兎等の世話をしている。

ある休日の暴風雨警報発令中、当番児童の元気な挨拶の声があがった。雨合羽を着た当番のこの姿に、警報発令中の飼育当番への指導の欠如を強く反省した。

このような教師側の配慮が欠けた面はないだろうか、考えてみたいことである。



秋。「空のうち曇りて、風のことさわがしく吹きて、黄なる葉どもほろほろとこぼれ落ちる、いとあわれなり」枕草子の一節ではあるが、わび、さびを感じさせる秋も今やたけなわである。

青まつむしやいとどの奏でる中で、読書よし、杯を傾けるもよし、実りの時としたいものである。

「墨をする」十年ほど前までの習字の時間には、背骨を伸ばして静かにする、手本を見て字形を確認する、また、墨がまがらないようにと注意を受けたものだ。今は墨液を硯の中に流し、筆に含ませて書く。練習時間を長くという理屈もわかるが、現代っ子に欠けているものが何かあるように思えて仕方がない。